

自閉スペクトラム症児に対するエビデンスに基づいた実践を学ぶことのできるネット上の公的資料について

AFIRM (Autism Focused Intervention Resources and Modules) を参考に

大石博司

(畿央大学教育学研究科)

KEY WORD : 自閉スペクトラム症 研修 インターネット

【問題意識】

近年は自閉スペクトラム症の子どもがその通り、あるいは発達障害として保護者に診断、告知されることも増え、また告知後に対応する医療・教育・福祉の機関も増えてきている。しかしまだまだ「待ち」が生じたり、何も有効な手立てが取られないまま、苦しむ保護者が SNS などでも可視化されている。また学校でも特別支援学級や特別支援学校で、初めて自閉スペクトラム症の子どもを担当する教師が、子供の、それまでの自分の常識から見ると不思議に見える行動に、困っている様子も散見される。もちろんそれぞれ専門家に相談できたり、グループで学習できたりする機会に恵まれれば良いが、なかなかそういった機会がもてないのが現状もある。

その状態を少しでも解消でき、最初に自学自習できるようなネット上の情報を探してみた。

【調査方法】

自閉症スペクトラム症の子どもへのエビデンスに基づいた実践 (Evidence-based Practices : 以下 EBP) については、アメリカでは 米国教育省特別教育プログラム局から 2007 年から 2014 年まで資金を得た自閉症スペクトラムに関する国立自閉症専門家育成センター (the National Professional Development Center on Autism Spectrum Disorder : 以下 NPDC) が、自閉症に焦点を当てた介入の資料と講座 (Autism Focused Intervention Resources & Modules : 以下 AFIRM) として公開講座化している。

比較のために公的サイトとして国立特別支援教育研究所 (NISE) の「NISE 学びラボ」や、「発達障害ナビポータル」「発達障害情報・支援センター」、またこれは民間になるかもしれないが、準公的サイトとして「一般社団法人日本自閉症協会」のサイトを見てみた。

【結果と感想】

AFIRM は以下のような構成になっている (2023 年 5 月 28 日時点、分類、数字、訳語は報告者)。

TOP ページには 1.自閉症とは、2.EBP の選択 (選択するための考え方)、3.パラプロフェッショナル (教師より専門性の低いと考えられる職員) 向け模擬 e ラーニング、4.幼児 (への支援者) 向け講座、5.利用可能な EBP 講座、6.利用

可能な補足講座へのリンクが貼られている。EBP として上げられている 28 項目のうち、応用行動分析 (以下 ABA) の具体的なやり方についてのものが 14 項目、視覚的支援 (TEACCH に基づいていると言ってもいいと考えられる) についてが 2 項目、全体的なもの (しかしその中では ABA の項目や視覚的支援が使われている) が 5 項目、その他が 5 項目となっている。講座は、動画や静止画をふんだんに使い、音声で説明するスライドやインタラクティブなクイズなどもあり、場面のシミュレーションなどあり具体的に考えられる。

それに対し、日本のサイトは日本自閉症協会を除いてひとつの講義、概論としてはまともは良いものの、具体的にどうして良いかはわからないままだった。また一人ですらに深めようと思う時に難しいと感じさせられた。

日本自閉症協会については、子どもに対する診断告知を受けた保護者に対して、まずは落ち着ける工夫はされていると感じた。

【課題】

日本の公的サイトを見た時、どのサイトでも具体的な関わり方については語らず、「まずは相談を」と勧めるようになっている。自閉スペクトラム症の特性がどのように個人に現れるかは千差万別であり、これは基本的に正しい。しかし、告知されたばかりの時、まずは日本自閉症協会の動画などを見て少し落ち着いた時、「じゃあどうすればいい」「どんな EBP があるのか」というのを、専門家に会える前にとりあえず知ることのできる公的なサイトが必要ではないかと考えられる。

【参考文献】

井澤信三 (2021) 自閉症スペクトラム症のある人への介入研究が学校教育に貢献するために

Kristi L. Morin et al. (2020) Knowledge of evidence-based practices and frequency of selection among school-based professionals of students with autism.

Wong et al. (2015) Evidence-based practices for children, youth and young adults with autism spectrum disorder: A comprehensive review.

(OOISHI Hiroshi)